

平成30年度全国学力・学習状況調査 結果分析・活用について

学校名

大磯町立大磯中学校

1 調査結果の分析で明らかになったこと

	習得の状況が良好であると判断できるもの	指導の改善・充実が求められるもの
国 語	・日常的な漢字の読み書きや慣用句の意味、接続詞の働きを身につけること。 ・文脈に即して語句の意味を的確に理解・活用すること。 ・論理的な構成や展開に注意して内容を捉えること。	・目的に応じ、わかりやすい文章をまとめる力。 ・文章で情報を整理し、内容をまとめる力。 ・文章の構成や展開に、自分の考えをもつこと。 ・根拠となる事柄を指摘し、文の成分の順序や主語述語の照応などに注意し、自分の考えをまとめる力。
数 学	・数と式の「計算」、図形分野の「見取図や投影図などからの読み取り」など基礎的・基本的な問題の解法や見方、考え方。 ・条件を読み取り、問題場面における考察の対象を捉える力。	・数量の大小関係を不等式で表すことや多数回の試行結果から得られる確率の意味の理解。 ・等式の変形や割合に関する学習の定着。 ・少人数授業やTT授業の利点を活用し、生徒一人ひとりに対する個別のサポート。 ・好きで、最後まで粘り強く考え抜ける姿勢。
理 科	・授業の内容理解や「好き」と答えている生徒が多いこと。 ・活用に関する問題の方が知識に関する問題の方より正答率が高い。観察実験から考察を考える授業が生きていること。	・「濃度」を考えさせる問題 ・「感覚神経」を答える問題 ・自分の考えや考察を周りの人に説明するなど周りの人に発信する授業の充実。

質問紙	・「先生はあなたの良いところを認めてくれているか」は高いが、自分の「良さ」を認めることはそれよりも低く、「自己肯定感」があまり高くない傾向がある。しかし、将来の夢や目標を持ち、人の役に立ちたいと思っている生徒は多い。 ・基本的な生活習慣は身に付いている。しかし、家庭学習面では、塾等で学習している人も多く、学校の宿題、予習・復習にあてる時間が比較的少ない。 ・「地域の人と関わる機会が多い」と感じている生徒や「地域に貢献している意識」の生徒も多い。
-----	--

2 学校運営及び授業の充実に向けた取り組み

学習においては、全体的に良い成果が出ており、話し合い活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることは以前より増えてきている。教職員が取り組んでいる授業研究の成果が出ているといえる。しかし、なぜ？ そのようになったのか、根拠を示したり、普段の生活に活用できないか考えたりする力がまだ弱く、指導方法の工夫・改善を今後も図っていく必要がある。

3 家庭（地域）へのお知らせ

「朝食を毎日食べているか」という質問に対して、ほとんどの生徒が「毎日食べている」答えている。これはとても大事なことであり、保護者の皆様に感謝申し上げます。毎日、寝る時間のばらつきはあるものの、家庭での学習を含め、時間の過ごし方についてお子様と一緒に検討いただければ幸いです。